

The 30th Annual Meeting of Japan Society of Aesthetic Plastic Surgery

第30回 日本美容外科学会総会

第100回 学術集会

プログラム・抄録集

メインテーマ

「次世代への期待 - JSAPS30年を経て -」

会期 2007年10月6日(土)・7日(日)

会場 ルネッサンスサッポロホテル

会長 新富 芳尚(蘇春堂形成外科)

Ogata

P2-3 下眼瞼形成術 私がいちばん多く用いる方法

連続した5症例

炭酸ガスレーザーを用いた経結膜的下眼瞼形成術

¹慶應義塾大学 医学部 形成外科

²大城クリニック

○緒方 寿夫¹、大城 貴史²、佐々木 克己²、
藤井 俊史²、大城 俊夫²、中島 龍夫¹

【目的】 下眼瞼のしわ・たるみ・ふくらみといった加齢変化は、眼瞼組織の弛緩および頬部組織の下垂によって顕在化し、治療は形態・主訴に応じて、隆起部の皮膚・軟部組織切除、陥凹部の augmentation、skin tightening などが行われる。今回、演者がいちばん多く用いる方法として炭酸ガスレーザーを用いた経結膜的下眼瞼形成術(眼窩脂肪の切除)を挙げ、経験例を顧みることで手技・適応・他治療との兼ね合いなどについて報告する。

【方法】 2000-2006年に当該施設で、同一術者が行った85症例を対象とし、患者背景、合併症、再手術の内容など術後経過を検討した。手技は、経結膜切開、隔膜前アプローチによる眼窩脂肪切除で、組織切開に炭酸ガスレーザーを用いた。

【結果】 患者背景は、25-76歳(平均50.4歳)、男9名女76名であった。適応は、眼窩脂肪の前方突出による膨らみが主体で皮膚余剰が少ない症例としたが、皮膚余剰が明らかで皮膚切除を薦めたものの本法を選択した症例もあった。経過観察期間内に脂肪の再切除を希望・施行した症例は最低4例、皮膚切除を希望・施行した症例は最低1例であった。最近例では各種スキンケアおよびレーザーによる skin tightening 治療を併用する例が多かった。術後重篤な合併症・クレームの経験はなかった。

【考察】 演者らの施設では1996年以降本法を行っており、buccal fatに類似した脂肪形態を考慮した剥離法、血管束を温存した内側脂肪塊切除法などの工夫を行い、より後出血の少ない手法を行っている。形態別の適応、脂肪切除の部位・量、バセドウやアトピー患者での適応など、適応と手技について曖昧な部分も多いが、患者の希望、骨格形態を含めた顔貌、を慎重に検討し、適応を広げすぎないことが肝要と考えている。既に広く行われている術式と思われるが、経験例を報告し、手技の工夫、適応の考え方等、意見交換できれば幸いである。

「下眼瞼形成術 私がいちばん多く用いる方法 連続した5症例」

座長：岩波 正陽（新横浜形成クリニック）

市田 正成（いちだクリニック）

P2-1 Hamra 法による下眼瞼形成術 57

順天堂大学 医学部 形成外科

○小室 裕造

P2-2 下眼瞼形成術 私が一番多く用いる方法 連続した5症例 ... 58

¹ クリニックウツギ

² 北里研究所病院美容医学センター

³ 北里大学 形成外科・美容外科学

○宇津木 龍一¹、佐藤 英明²、内沼 栄樹³

P2-3 下眼瞼形成術 私がいちばん多く用いる方法 連続した5症例
炭酸ガスレーザーを用いた経結膜的下眼瞼形成術 59

¹ 慶應義塾大学 医学部 形成外科

² 大城クリニック

○緒方 寿夫¹、大城 貴史²、佐々木 克己²、
藤井 俊史²、大城 俊夫²、中島 龍夫¹

P2-4 私がいちばん多く用いる方法 連続した5症例
Skin-muscle flap と skin flap の術後結果の比較 60

ヴェリテクリニック

○福田 慶三、大口 春雄、中西 雄二

P2-5 下眼瞼から中顔面にかけての若返り
ハムラ法とケーブルスーチャー法を利用する手術 61

カリスククリニック

○出口 正巳